

海のプラごみ 現状を学ぶ

東広島 豊田高でオンライン講義



東広島市安芸津町の豊田高で13日、大学院生による海洋プラスチックごみに関するオンライン講義があった。日本アセアンセンター（東京）と広島アセアン協会（東広島市）が主催し、

1年生33人が参加した。京都大大学院の益田明奈さんが講師を務めた。動画やスライドを使いながら、この50年間でプラスチックの生産量が世界で20倍になったことや、微小なマイク

オンライン講義で海洋プラスチックごみについて学ぶ豊田高の生徒

ロプラスチックが魚などを通じて人間の体内に取り込まれる可能性について解説した。

東里海^{さとみ}さん(15)は「地元^{さとみ}の海をごみのないきれいな状態で残すために何ができるのか、考えたい」と話した。

本年度から始まった、小学生と高校生に海洋プラスチックごみ問題を学んでもらう教育プロジェクト「広島アセアン・エコスクール」の一環。海沿いに立地する同高が、生徒に環境問題へ関心を持ってもらおうとプロジェクトに応募した。講義は同高を含め県内5校で実施する。

(高橋寧々)